



現場からの感謝が仕事の喜び
——仕事のやりがいを教えてください。

社員の意見が通りやすい
自由な職場だと思います。

Profile

1983年、佐賀県生まれ。久留米工業高等専門学校材料工学科卒業。2004年、三松に入社し、プログラム室に勤務。

＜自由な社風の中で活躍する＞
設計と現場をつなぐ

設計図と製造現場との橋渡しをするのが篠原里美の仕事だ。現場からの意見を取り入れながら、最善のプログラムデータを作成する。

——苦勞する点はどのようなことですか。
篠原：最初は現場でやっている作業内容がよくわかりませんでした。現場の感覚がわからないと、加工機械の的確なデータを作ることはできません。ですから、現場となるべく連絡をとるようにして、精度の高いデータを作成する努力をしています。4年目になって、やっと一人前に近い仕事ができるようになりましたが、まだまだですね。

——現在の主な仕事は何ですか。
吉岡：材料費関連のシステムを構築しているのですが、お金と関係しているので緊張感があります。プレッシャー5割、やりがい5割という感じでしょうか。

——今後の目標を教えてください。
吉岡：社内システムだけでなく、お客さんの製品に関わる仕事に携われたらと思っています。近いうちに機械制御の仕事でチャンスがあるのですね。楽しみにしています。また、社会に出て3年目なので、もっと社会人としての自覚を高めて、仕事に取り組みでいきたいですね。

Profile

1984年、福岡県生まれ。久留米工業高等専門学校制御情報工学科卒業。2005年に三松に入社し、企画管理部で社内システムの構築を担当している。

三松 製造部 本社工場
エンジニアリング課 課長
宮地
優



三松では
自分がやりたいように
仕事が進められる。
若い人が多いので、
若い力を核として会社を
大きくしていきたい。

会社概要 株式会社 三松

所在地 ● 福岡県筑紫野市岡田3丁目10番9号
設立 ● 1972年(昭和47年)3月
資本金 ● 8,500万円
事業内容 ● 薄物板金加工をベースにした製造
代行サービス 社員数 ● 134名
URL ● <http://www.sanmatsu.com/>



就職情報は
コチラ

Profile

1964年、佐賀県生まれ。佐賀大学工学部生産機械工学科卒業後、電力関連機器の金属加工を8年間経験する。1995年、三松に入社。現在の主力製品の一つである、携帯電話基地局ボックスの設計を担当。現在はエンジニアリング課の課長として設計とマネジメントを行っている。

描いていることが多いです。
——入社したとき、三松の印象はどうでしたか？
宮地：入社した当初、驚いたのは現場に図面を読めない人がいたことです。だからといって製品の質が悪いわけではない。会社ごとに作り方は違いますからね。私は知識を提供しながら、同時に私に不足しているノウハウを教えてくださいました。現在は図面は読めるようになっていきました。

——仕事でうれしかったことを教えてください。
宮地：携帯電話基地局のボックスを最初に設計したのは私ですが、初めてのことだったので苦労しました。現在はその製品がかなりの出荷量になっていますので、苦勞が報われて嬉しいですね。また、10年以上前に作った機械が今もきちんと動いているの

省力化機器で
新事業部を立ち上げる

を見ると感慨深いですね。

——三松でモノづくりをする面白さは何でしょうか。
宮地：良い点は、社員のやりたいようにやらせてくれるところ。当然、自己管理が必要になります。どのように入るかは現場の責任者に任せられており、最終的に結果を出せばいいわけです。それが仕事のやりがいになりますね。自由があるので、やりたいことにドンドン挑戦して、これまで世の中になかったモノを作ることが出来る。だから、やる気さえあれば思いっきり自分を伸ばすことができます。

——人材を育てる、という点ではどうですか。
宮地：仕事がある程度できるようにすれば、とにかくやらせてみるのが三松流。1000の力があれば120、ときには1500ぐらいの仕事を与えています。自分の限界を超えることで、大きく成長できるからです。

——今後はどのような仕事をしていきたいですか。
宮地：実は新しい事業部を立ち上げたいと考えています。現在の課長職を誰かに替わってもらって、省力化機器を製作する部門を作るつもりです。一つの製品をゼロから自社で作ることで、会社全体のモチベーションも上がると思っています。

この会社はまだまだ伸びる要素がいっぱいある。若い人が多いですから、これからは若い人が中心となって三松を成長させていって欲しいですね。